

## 121 No. 1: 教育熱心な家庭－英語で教える中学が人気－

(平成 30 年 4 月 24 日)

香港では、日本以上に教育熱心な家庭が多い。  
2009年の教育改革に伴い、日本と同じ6-3-3-4制（小学校6年、中学校3年、高校3年、大学4年）となったが、香港の公立小学校は学区制ではなく、成績により入れる学校が変わるため、ほとんどの家庭で幼児教育に力を入れている。

子どもたちは毎日、英語や算数、絵画といった習い事に通うほか、幼稚園でも英語と中国語の授業があり、掛け算や簡単な計算はひと通りできるようになる。

語学に関し効果的なのは、英語を母国語とする住み込みのメイドの存在だ。共働きの両親に代わり、幼稚園や学校、塾の送り迎えなど、一日の大半を子どもと共に過ごす。コミュニケーションは英語のため、自然と英語が身につく、広東語、中国語、英語の3か国語を習得したトリリンガルとなる。

また、香港では基本的に中高一貫となっているため進学率の高い中学校、特に中国語以外の教科を英語で行う教育の人气が高い。

香港は日本と比べ大学数が少ないことから、大学受験は非常に厳しく、海外の大学への留学を選択するケースも少なくない。

進学する学校次第で、その後のルートがある程度決まってしまうため、親は自分の子どもにはバンドワン（学校の評判が良く、学生の成績も良い）への進学を希望する。子どもたちも勉強熱心でとても優秀だ。

こうした中、香港城市大学専上学院の日本研究課程で、本県の歴史や文化、観光を紹介する機会をいただいた。主に2年間の副学士課程（日本の短期大学に準ずる）を提供する高等教育機関である。

元々、日本文化に興味を持っている学生たちではあるが、栃木県が世界に誇る二社一寺や足利学校といった歴史遺産、伝統芸能、伝統の技などについて話すと、皆、メモを取りながら熱心に聞いており、「栃木」に更に関心を持っていただくことができたと思う。

なお、現在香港には、1つの日本人学校（2つの小学部と1つの中学部）がある。

文部科学省の定める学習指導要領に準拠した学習内容に加え、英会話や現地学校との交流活動などを取り入れ、特色ある教育課程を編成している。

慣れない海外での暮らしで不安を覚える子どもも少なくないが、出身県が同じ先生がいると、それだけでずいぶん違うらしい。

本県企業の海外展開には、駐在員の家庭を陰で支える本県出身の先生方の力も大変重要なのである。



【講義の様子】

毛塚 隆弘(けづか たかひろ)

栃木県香港事務所所長。

1993年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構（ジェトロ）に出向。2017年4月から現職。栃木市出身。